

# I am Jazz! (ジャズ・スーパー列伝)

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 48

## Tommy Flanagan【トミー・フラナガン】

～数々の名盤・名演を残したジャズ史に輝く名ピアニスト～

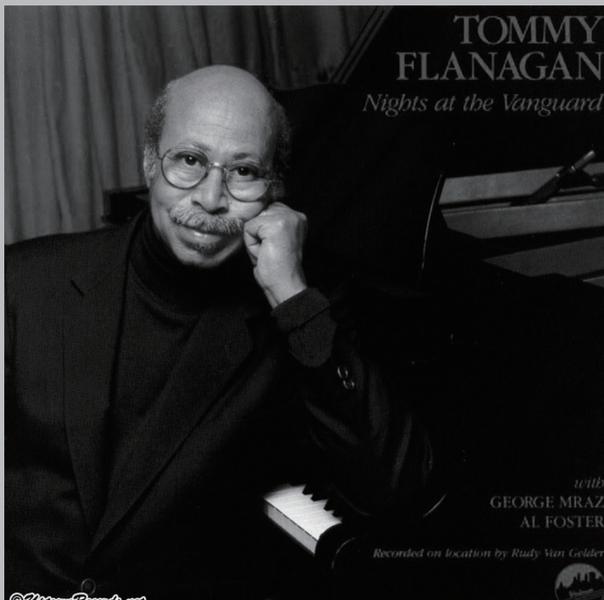


Photo: "Nights at the Vanguard" / Tommy Flanagan (Uptown Records: UPCD-2729)

### Profile

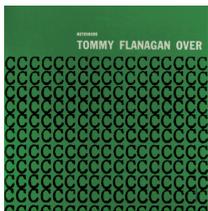
1930年3月16日、米国ミシガン州デトロイト・コナント・ガーデンで生まれる。本名はThomas Lee Flanagan。父はギタリスト、母はピアニストの音楽家の家庭で育ち、5歳でクラリネット、11歳でピアノを始める。兄からレッスンを受け、その後、カーク・ライトシーやバリー・ハリスにもピアノを教わり、15歳でプロ・デビューを果たす。ラッキー・トンブソンのバンドで演奏し、地元デトロイトに来ていたチャーリー・パーカーと共演する機会を得る他、ジャズ以外にもリズム & ブルースのバンドでも演奏を行う。49年には地元のブルー・バード・インでレギュラー・ピアニストとして活動。51年に軍に入隊。除隊後、再度ブルー・バード・インで演奏し、ケニー・バレルやドナルド・バード等と共演。56年NYに進出後はマイルス・デイヴィスのアルバムに参加する他、ジョン・コルトレーンの『ジャイアント・ステップス』やソニー・ロリンズの『サキソフォン・コロッサス』等、ジャズ史を飾る数々の名盤で名演を残す。60年代初頭はコールマン・ホーキングスのカルテットで活動。62年からエラ・フィッツジェラルドの伴奏者となり、音楽監督も務めるなど78年まで共演。78年にはレジー・ワークマン、ジョー・チェンバースとスーパー・ジャズ・トリオを結成。80年代から90年代にかけても、精力的にレコーディングやライブ活動を行う。サイドマンとしては勿論、リーダー・アルバムでも数多くの名盤を残し、グラミー賞には4度ノミネートされる。来日の機会も多く、日本の多くのジャズ・ファンにも親しまれた。98年以降は体調を崩し、演奏活動から遠ざかっていた。2001年11月16日、NYマンハッタンのマウントサイナイ病院において、動脈瘤による合併症のため死去。享年71歳。

# TF's Great Album

ここに紹介した3枚のリーダー作品以外にも、サイドマンとしての参加作品も含めて、数え切れないほどの名盤に名を刻んでいるので、出来る限りたくさん聴いて欲しい。

と称される初リーダー・アルバム

トミー・フラナガンの最高傑作



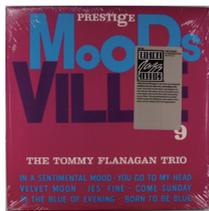
## オーバーシーズ トミー・フラナガン

(Original Jazz Classics : OJCCD 1033) [Import CD]

トミー・フラナガン (p)、  
ウィルバー・リトル (b)、  
エルビン・ジョーンズ (ds)

1. リラクシン・アット・カマリロ 2. チェルシー・ブリッジ 3. エクリプソ 4. ビーツ・アップ 5. スカ  
ル・ブラザーズ 6. リトル・ロック (他、全12曲)

も漂うトミー・フラナガンの名作



## ムーズヴィル トミー・フラナガン

(Original Jazz Classics : OJC-182) [Import LP]

トミー・フラナガン (p)、  
トミー・ポッター (b)、  
ロイ・ヘインズ (ds)

1. イン・ザ・ブルー・オブ・ジ・イヴニング  
2. ユー・ゴー・トゥ・マイ・ヘッド 3. ヴェルヴ  
エット・ムーン 4. カム・サンデイ (他、全7曲)

トミー・フラナガンのコレク  
ション  
トミー・フラナガンの名作



## ジャイアント・ステップス トミー・フラナガン

(コロムビア : COCB-53813)

トミー・フラナガン (p)、  
ジョージ・ムラーツ (b)、  
アル・フォスター (ds)

1. ミスター・P.C. 2. セントラル・パーク・ウエ  
スト 3. シーダズ・ソング・フルート 4. カズン・  
メアリー 5. ネイマ 6. ジャイアント・ステップス

トミー・フラナガンの

記念すべき初リーダー作品。

当時在籍していたJ.J. ジョンソン・  
クインテットの一員として欧州ツアーを  
した際、リズム・セクションだった3人  
がストックホルムで吹き込んだ作品。オー  
プニングを飾るバード作の「リラクシン  
アット・ザ・カマリロ」やウィルバーのベ  
ース・ソロで始まるトミーのオリジナル  
「リトル・ロック」等、聴き所満載。

1957年ストックホルムにて録音。

トミーの最高傑作と称される  
アルバム。

『オーバーシーズ』が

“動”、本作が“静”として  
比較され、『オーバーシーズ』と  
共に親しまれ、トミーの傑作と称され  
るアルバム。スタンダードを中心に、タ  
イトルの如くムード漂う落ち着いた雰囲気  
と心地良さが最高。“静”のトミーの象徴  
とも言える「ボーン・トゥ・ビー・ブルー」  
と「イン・ア・センチメンタル・ムード」  
は秀逸。「カム・サンデイ」はトミー  
のピアノソロ。トミー・ポッターと  
ロイ・ヘインズ的好演も光  
る。1960年録音。

ジョージ・ムラーツと

アル・フォスターとのトリオで  
1982年に録音したコレク  
ション作品集。コレク  
ションの名盤『ジャ  
イアント・ステップス』に収録の5曲と『コ  
ルトレーン・サウンド』に収録の「セント  
ラル・パーク・ウエスト」を含む6曲を収録。  
息の合ったトリオのプレイが魅力で、ト  
ミー本人がレコーディングに参加した本  
家『ジャイアント・ステップス』と聴  
き比べてみると更に面白い。「セ  
ントラル・パーク・ウエスト」  
も素晴らしい。

## エラ & トミー

エラ・フィッツジェラルドの伴奏者としてもその名を轟かせたト  
ミー・フラナガンは、ニューヨークに進出した1956年に代役  
としてエラの伴奏を務めたのをきっかけに、1962年に正式  
に伴奏者となり、1965年までの3年間と音楽監督として専  
任した1968年から1978年まで共演を続けた。1975年2  
月には東京で『エラ・フィッツジェラルド&トミー・フラナガン』  
と題されたコンサートも行われ、トミーのピアノ・トリオ(ベ  
ースはキーター・ベッツ、ドラムはボビー・ダーハム)の演奏  
の後にエラが加わり、伝説的な素晴らしい演奏となったようだ。

## Jazz Club OverSeas

大阪・堺筋本町に「OverSeas (オーバーシーズ)」という  
有名なジャズ・クラブがある。弟子を取らないことでも有名だ  
ったトミー・フラナガンの唯一の直弟子であるジャズ・ピアニ  
スト寺井尚之が経営する店で、店名は文字通りトミーの名盤&  
初リーダー・アルバムから命名。1979年5月に大阪市東区  
(現在の中央区)で開店し、2003年5月より現在の堺筋本  
町に移転し、営業を継続している。オーナーである寺井氏は  
この店を拠点に演奏活動を続け、後進の育成にもあたっている。  
トミー・フラナガンのファンなら一度は訪れるべきお店。

# Jazz Standards (ジャズ名曲列伝) vol.21

## ~ Born To Be Blue【ボーン・トゥ・ビー・ブルー】~

この曲は1946年にヴォーカリストのメル・トーマと友人のロバ  
ート・ウェルズのコンビが19歳の時に共作(2人は「クリスマス・  
ソング」の共作者でもある)。センチメンタルなメロディと共に名  
バラードとして親しまれ、多くのジャズ・ミュージシャンにカヴァ  
ーされ続けている。アルバムタイトルの付けられることもあり、  
2016年11月に公開されたチェット・ベイカーを描いた同名タイ  
トルの映画(邦題:『ブルーに生まれて』)も話題を呼んだ。

★この名曲が聴けるお薦めのアルバム

- ヘレン・メリル『ヘレン・メリル・ウィズ・クリフォード・ブラウン』
- グラント・グリーン『ボーン・トゥ・ビー・ブルー』
- ボビー・ティモンズ『ボーン・トゥ・ビー・ブルー!』
- チェット・ベイカー『ベイカー・プリーズ』
- ジャック・ブルース『シングス・ウィ・ライク』